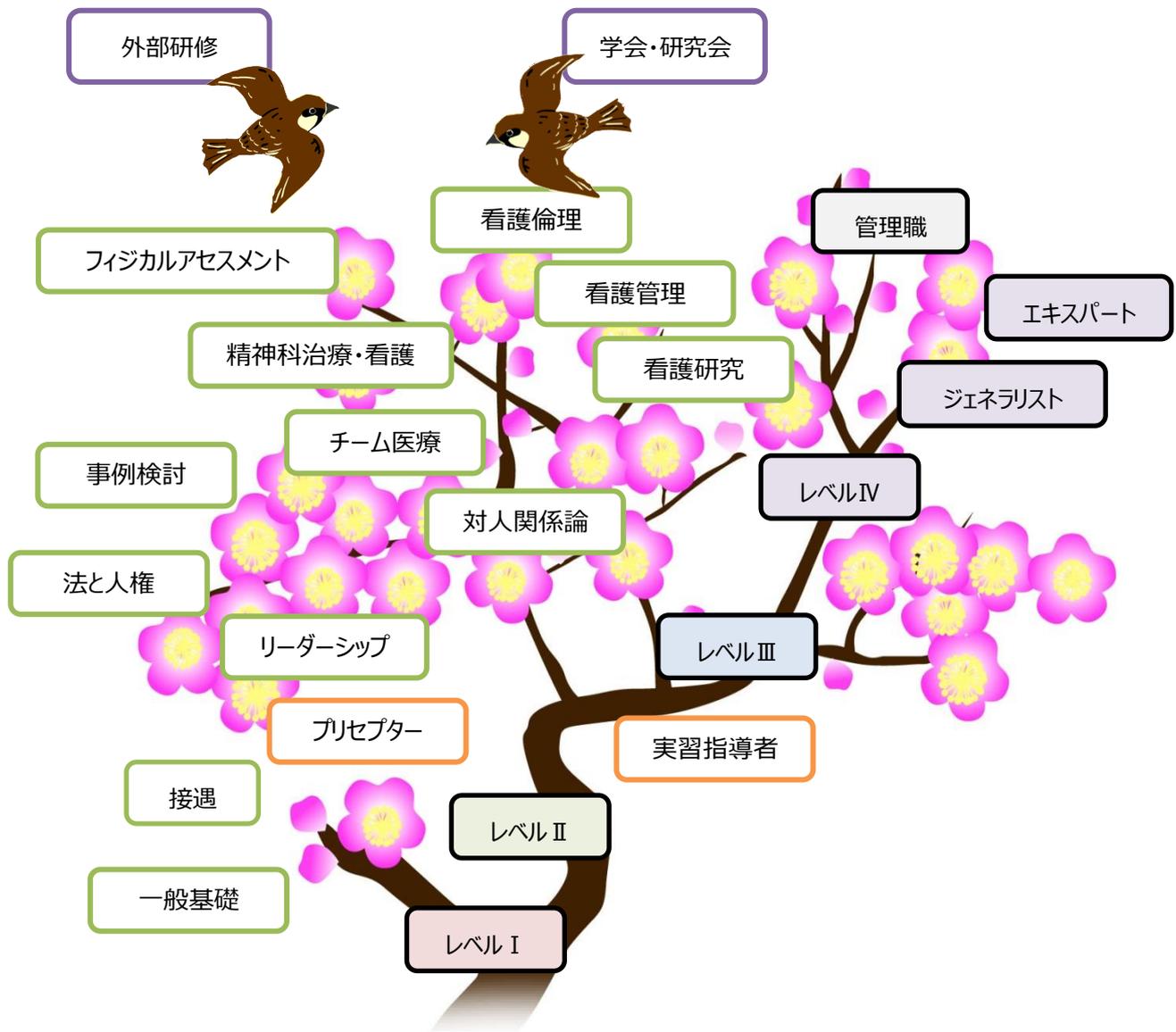


キャリア開発概念図



今から約 600 年以上も昔、北条氏の時代に梅の実を兵糧用にするため、小田原城下に多くの梅の木が植えられました。それが江戸時代には、小田原城藩主の大久保氏により梅の栽培が奨励され急速に増えました。さらに、箱根越えの拠点としての宿場町として、旅人の必需品（弁当の防腐、のどの渴きを癒す、健康食品）としても梅干が重宝され、当院のある下曽我は白梅計 35,000 本という有名な梅林になったのです。

そこで、看護部職員が梅の花のような「美しさ」「可憐さ」「高貴さ」をもったケアと梅の木の成長のように遠慮なくどんどん伸びてもらいたいという願いで、概念図は梅の木をモチーフにしました。